



發行所 新報中央通り
三三三
本報印刷部
一般一冊年の金 五圓

悼山本提督

據日本大本營發表、日本聯合艦隊司令官海軍大將山本五十六閣下、本年四月於南方前線、指導全般作戰中、與敵交戰、於飛行機上壯烈戰死、噩耗傳來、驚疑悲痛之餘、爲之肅然正襟、默禱。

自開戰當初、開始攻盪夏威夷、潰滅美國海軍艦隊繼而馬來海戰或在太平洋或在印度洋、屢收赫赫之大戰果、摧滅英國東洋艦隊之全勢力、充分發揮皇軍之威力、非第世界驚嘆、且確立戰局必勝之體制此等大作戰之指導者、即山本提督是也。現在太平洋大部分之制海權制空權、已歸皇軍、在今日戰爭中置親邦如磐山之安、確守廣汎之海洋及占領地域、此皆

天皇陛下御威威之所致、然亦多賴大將神策奇謀指揮統率得宜而致此其功績之偉大、親邦全國國民感激涕謝固勿論、亦爲全東亞民族所痛惜不置者、

然而、戰死固爲武人應具之精神尤其樹立絕大之偉功、確立親邦海軍今後大事活動之地步、導戰局於全勝、大將知此、當含笑於九泉也。

當大本營發表之日、天皇陛下因嘉大將生前之勳功、叙大勳位功一級、列於元帥府、賜元帥之稱號、大將此無比擬之偉勳、蒙此 聖恩、並特降旨賜國葬、洵爲武人最高之譽榮焉。

鎗後與前線

現下之戰局、極爲深刻、南北戰場皆在繼續決戰中、不問前線與鎗後、咸入決戰之階段、敵雖大事

大東亞戰爭、已到一半半了、戰爭的局勢、已經進入決戰的階段、在這個時期、我們最痛感的事情、是對前線的鎗後活動、一體活動的強化、像我們現在以「鞏固鎗後」四字所表現的活動、那是不能的。因爲鎗後一天緊張一天、所謂前線與鎗後的不同、應當完全一掃而去、所以現在所謂鎗後兩個字、已經是武裝的鎗後、我們鎗後的一切生產活動又是武裝的生產活動。就像國民的防空、家庭防護的重要、已證明我們的鎗後活動、不是仰賴前線

武裝所護衛的活動、正是在敵空襲與謀略脅威下應當自己採取武器來從事戰爭的鎗後活動、我們應當充分認識理解後戰戰爭未來的激化發展和我們鎗後所占的新地位、我們來看近代戰的特質、不是把過去安逸的鎗後實態粉飾得淨盡嗎！

然而、這種態度的新、我想最緊要的、是把鎗後活動、前中戰力補充、以及一切生產活動的價值應當放在第一線的價值均等的重量上。因爲我們前線軍的所謂無敵的威力、固然卓越無比、世界驚異

在所難免。所以前線和鎗後關係、處在大東亞戰果與勝地把握之間、與其說有價值的均等性質、莫如說有一體的地位、現在我們看看鎗後所補給的一粒子彈、一架飛行機、着實有摧滅敵方若干爆炸機、戰艦的意義。而一噸煤、一噸鐵的增產、也可以說有擊碎敵方戰鬥力的意義、像這種事實、可以說把前線和鎗後任務輕重的意義、完全歸一了、在旁的國家中對於產業戰士和前線將兵一樣、也用國家的最高勳章來表彰其功勞、這足徵前線和鎗後活動的性質、並無二致、我們再看盟邦德國、把一切軍需生產經營、放在軍支配之下、由軍人來指導運營、因而確立了前線鎗後敏捷的一貫體制、

對於肩負大東亞興亡運命學國與師擊滅美英的我們親邦日本的地位我們滿洲國舉國的鎗後意義、不用說任何人都知道的。而我們滿洲國的鎗後意義、當然也有鎗後的前線之意義。鎗後滿洲國前線的活動。已在官民一致協力體制下、向第二期建設戰、開始邁進、但是我們四千萬國民、對於農產物的增產煤鐵礦有色金屬部門增強等所謂重點的一切活動、固勿待論、就是在日常生活上、也得把那安逸的鎗後精神完全一掃淨盡、以實現前線鎗後的活動和精神一體化！

言時

言時
是常に福来るのは笑ふ人の善い想念が天國に開けてあるからであり、不幸は不幸がつよく不幸に見舞われた人の意志が前線まで地獄への道路を開いてあるからである。

我々人間は持ち切れぬ悩みが生ずると神佛に頼るが「苦しい時の神だのみ」とは云へ、神佛に悩みを預ければ自ら身軽になり、即ち哀怒の想念は拂式され喜樂の想念を醸すこととなり、従つて更に至るべき不幸をさへ避けることとなるものである、事實現に信仰生活に入つてゐる人は持ち切れぬ悩みの境地に置かれた人が多いのである。我々は信仰によつて常に明るい生活を送らねばならぬ。

心に花の開く時
天地四方に花開き
心に木枯すさぶ時
世界に木枯吹きまくる。

（瑞の子）

第二回教化委員連絡會

商討實踐三大運動

茲當決議體制下、負國民教化責任者宗教之化團體之使命愈益重大、文教部教化司爲達成國策宣傳而期大東亞聖戰早日完遂起見、乃於五月廿八日午後一時、假該部第一會議室、開第二回國民教化委員連絡會議、屆時除文教部關係當局、盧大臣、田中次長、耿教化司長、坂垣社會教育科長、王禮教科長、伊藤事務官、榮事務官出席外來賓則有呂農產司長、徐中銀副總裁及共浦國民儲蓄宣傳委員會委員、團體則有

- 1. 滑產運動(由呂農政司長說明)
- 2. 儲蓄運動
- 3. 識字運動(坂垣社會教育科長)

△國民儲蓄之必要(徐中銀副總裁)
△國民儲蓄宣傳方策
(共浦國民儲蓄宣傳委員會委員)

3. 識字運動(坂垣社會教育科長)
最後爲懇談、五時許散會、六時在榮華香飯店並作政教合一極有意義之晚餐會、觀出席之各宗教教化主務者、都滿面春風、有向教化報國途上工作之決意云

釋如光、釋妙禪、景印潤、姬宮智嶺(佛敎)、王圓方、于和長(道敎)、山田武逸(天理)、土佐忠敏(神道)胡成國、李廷魁(基督)王惠民(回教)梁然勳、梁雲岐(道敎)胡蓬海(博濟)李鳳山(理善)孫瀾洲(立台山)崔恩培(大同)于靜仁、韓恕修(紅卍)等二十餘名

行國民儲蓄後、由盧大臣訓示、田中次長訓示、大意爲文教部之成立、係願應國策文教刷新、文教版與重臨、雖在學校教育、但亦多仰賴各宗教化團體之宣傳教化、希各本宗教各自之宗旨、一致携起手

奉天省國民教化運動計畫方針

博濟慈善會孤女徵婚選定

(新京)滿洲國博濟慈善總會、爲謀收容之孤女終身幸福、曾於去歲廣向全國爲孤女徵婚、消息傳出後一時頗受各方面之注目、結果應徵之青年、達百餘名之多、經由該總會選請民生部協和會、市公署等社

員王興舟、二十四歲、山東黃縣人、和順郵政局員魏乃金、二十二、新

京市人、二名爲合格、其他雖有資格者但因孤女適婚者人數關係、故均列入不合格之數、博濟總會、爲再

徵之王、魏二君聽取志願、最後由關係代表之決定、孤女趙濟

式、當時出席者有民生部孫保護科長丁協和會參事、王中央社會事業協會主事、徐市公署行政科事務官

宋新東社協代表、胡博濟會長、並未婚之兩對新人等、首先對孤女婚嫁應行考核事項加以協議、嗣對應願書各一榜、最後交換紀念物、在

結婚式、已擬定於來月以協和結婚式、兩對新人假博濟講堂、邀請關係當局出席舉行云。

體之機構並機能、振作其活動、實現真正之官民一體、以完成建國之理想、而資大東亞共榮之達成。

一、關於國民教化連絡委員之事項
確實組織委任康德十年度省、市縣國民教化連絡委員、整備其機能、強化統合、以振作其活動、

二、關於組織派遣講演班之事項
(1)爲使基本國策、世界情勢、大東亞建設必要性並國民訓本旨徹底認識實踐、訂自本年七月中旬、與協和並其他關係機關連絡協力之下、各市縣自體組織講演班、實施講演、

(2)使一般農民認識勤勞者之重要性、並期一般國民養成金庫獻納節約報國之理念、由各國體自體的向各市縣派遣巡迴講演班、

(3)自九月至十月之兩個月間、檢討昨年度集貨運動講演班之實踐、組織測面的工作講演班、

(4)其他遇特殊臨時必須講演宣撫之情形、則組織派遣。

文教科長會議

指示說明教化關係事項

文教部設置後第一次文教科長會議、五月廿六、七、八三日假該部大會議室開會、當時有盧大臣、田中次長、木田學務、佐枝教學、耿教化司長以下關係各科長、地方副新

特別市教育科長外各文教科長等約四十餘名出席、先行國民儲蓄後、

繼有盧大臣、田中次長之訓辭、旋即開始討論、教化司關係事項說明如次：

一、關於古蹟等國家的記念物保存強化之件、

一、關於本年度國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動之

狀況に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

繼而於午後、有地方側報告、關於地方國民教化連絡會運轉狀況之件、

文教部設置後初の文教科長會議は廿六、七日の兩日同部大會議室で開催、盧大臣、田中次長本田學務、佐枝教學耿教化司長以下關係各科長、地方側新東京特別市教育科長ほか各文教科長ら四十餘名出席、先づ國民儲蓄ののち盧大臣、田中次長の訓辭があつて議事に入つたが教化司關係では

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

一、古蹟等國家的記念物の保存強化に關する件

一、本年國民教化關係團體指導大綱並國民教化三大運動に關する件

各宗の決戦教化態勢

毅然として陣頭に起たむ

曹洞宗滿洲布教總監部

皇國の興廢を賭せる大東亞戰爭は既に第二年を迎へ戦局は益々擴大して東亞民族の必勝信念は日に新に昂揚さるべき秋、日滿一徳一心、同生同死の血盟を誓ふ我が滿洲國の使命は愈々重大大を加ふるに至つた。即ち決戦下の在滿日本人はその指導的地位に鑑み勇躍挺身を堅持して天業恢弘に邁進すべきは勿論、殊に日本佛教の閉教に従ふ者は全身心を投げ捨て、率先垂範須らく毅然として國民の陣頭に起たなくてはならぬ、蓋し興聖護國の祖訓に生死することは吾が禪僧の以て本懐とする所である。

依て在滿本宗開教師は協力一致道念を新にして従前より奉行し來れる戦時教化の振興に、一層の努力を拂ふと共に、特に左の決戦教化活動要綱に重點を置き、日滿一體の國家要請に副つて高く禪風を擧揚し翹首精進せんことを期す

決戦教化活動要綱

一、必勝信念の昂揚と思想國防の徹底

イ、完勝の基盤は鐵石の信念にあるを以て必勝不敗の信念昂揚に全力を注ぐを教化方針とす。

ロ、長期戦、總力戦の性格を確認し思想國防の大行者たる自覺を堅持して即身說法す

二、決戦生活を禪的に再建せしむる布教

イ、日常家庭生活の規範を禪的に導入せしむる實際指導に當るロ、作務精神の高揚、感恩合掌の生活を實行獎勵す

三、寺院布教所の道場化を前進實現

イ、寺院は國民の精錬道場なりとの本領を發揚し鍊成道場たる施設を強化しその實行に前進す

ロ、日語學校、託兒所、幼稚園婦人會等の開設並にその充實

四、五族敬愛運動の佛教的展開

五、大詔奉戴日の報國鉢托嚴修(以上各地域情況に即して實踐を期す)

お 願 ひ

本欄 を設けて各宗の決戦教化態勢を號を迫つて紹介致します。

編輯室の企圖を諒とされ、原稿送附方お願ひ致します。尙掲載は到着順に致します。

新中央通リ滿洲國通信社内
教化通信編輯室
各宗滿洲國教監督部 御中

海外短信

最近米副大統領ウオレスはソ聯に於けるキリスト教會の狀況は著るしく改善されたと述べたが、ソ聯の教會の狀況につきスイスのバーズラ、ナーツハリヒテノ紙は教會消息通の一記事を掲載した。

ソ聯國內に於ける信教の自由の復活については實際に根本的改革が行はれたか否かに關し同紙は次の如く述べてゐる。即ちボルシェヴィズム政體は一九一八年以降キ

リスト教會を徹底的に一掃した。教會團體及び修道院は解散せしめられ教會財産は沒收せられ教育有資格者に平等の教育が與へられた。正統派教會の老大な教團組織中殘存したのは三管區のみで四萬三千の教區中九〇%が解散せしめられたのである。過去二十五年来ソ聯では一冊の宗教書も印刷されなかつた、教會的活動及び宗教的行事の一切は反革命的として處罰された。然るに一九四一年六月ドイツ軍のソ聯進入以後ドイツはロシア國民の宗教的要求を認め直ちに教會の復活を始めた。從來閉鎖され又時には殘虐な目的に利用された教會の扉は再び開かれた。この事態に對してソ聯は何をなしたか。ソ聯では忽ち各種の反宗教的活動を悉く停止した。政府

當局では大規模な宗教的宣傳行動を開始し反宗教的博物館を閉鎖し宗教的講演及び文書を消滅せしめた、その後それのみならずソ聯に於ける宗教的宣傳」といふ激進な書籍を發刊寫眞及び文章を以てソ聯に於ける宗教の自由が如何に良好であるかを實證してゐる。併し現在なほソ聯の黨綱領に於ける正統派教會に對する憲法その他の法規上の規定が何等變更されてゐない以上この書籍の特性が奈邊にあるかは極めて明瞭である。従つてこの書籍或はその他の公刊物から直ちに輕率な結論をなしてはならない。ロシアに於ける正統派教會の慘めな状態は何等變更されて居ず、ソ聯内のキリスト教壓迫状況はウォーレスの言のやうには決して緩和されてゐないのである。

(文) 化

言葉と事象
日本人は正直この上もない民族である。腹と口とに隔りがなく、言葉と事實との間にひらきのないのが日本人本来の姿である。緒戦以來、日本が對外宣傳戰に成功してゐるのも、結局はこの特長を生かしてゐるところに秘訣がある。

元來日本の國語では「言葉」を「事象」とも書き表はし、「言」と「事」とが同じことば「コト」であるがこれは文字の國支那にも見

出されない日本獨特の現象であるこのやうに事と言とが一體化されてゐるのは、我々が考へたり語つたりするとき、常に事實を背景にし事實を土台としてゐる民族精神を證明するものである。「言葉」と「事象」の一致する所以もここにあり、この空理空論に陥らない明澄で正直な事實を尊ぶ精神こそ大和民族の根幹をなす精神である。事と言とが喰ひ違つてくると、嘘や虚飾や欺満が生じてくる

教化通信

說解

報德之道(二)

(分度)此可謂自律統制生活、

自己統制勞務結果之收入、使向第三之推讓前進一步、為報德生活樣式中之非常之特徵。分度之方法、先預算測天分(定收入)一收入之平均昔者、先生以四十年計畫償還相馬侯三十萬兩負債之方法、預計該家一百八十年間之年貢米(國稅)平均、此為有名之事實、然而、在一般入、則取數年間收入之平均、以之為天分、其次為天分之支出、分為分內分外兩項、其比率依照主制四分法或春生夏長秋收冬藏四節法以四分之三為分內、充當經常臨時之日常費用、四分之一、為分外、留作將來、總之、規整不奢侈、不吝嗇之生活。

於斯、施行數年分度生活、按照收入之增加、再測定天分、改正分度、新分度、雖變更分內分外之比率、但絕對額、兩者俱為增加、生活內容豐富、生活隆々發展、現在決戰下之戰時統制經濟、施行生產配給一消費統制、欲消費統制有效適切、各家庭生活、應徹底分度生活。

▲推讓 勤勞係開端、推讓係護道、推讓生活、尤為使 天照大神開關之道大成於吾等之生活、茲舉一、二

實例觀之、以金一兩、開田一反土

地面積收穫米一石、食用一石之半、推讓半石、作為次年開田之資、次年開田一反半、得產米一石五年再食半石讓半石、如斯經過一週度六十年、則開田總數為廿四億五千四百八十八萬二千二百五十三町二反六畝半、得米為二百四十五億四千一百八十二萬二千五百三十二石六斗二合

再就推讓生活言之、推讓首為分外推讓、例如定收百圓之四分之一、以七十五圓之分內生活、推讓餘者之二十五圓、此係「為吾個人、為將來、為子孫」之自己推讓、甚言之、亦即自讓、結局蓄財也、滿洲國本年之國民儲蓄目標為十六億、欲達成此數、須全國國民以仰神德皇恩國恩之念如上述之方法、自讓儲蓄分外之可及之大部分、方克有成也、自讓之外、尚有他讓、為隣里而讓、為職域而讓、為國家社會以及一切恩德而讓、例如從自讓之餘剩部分、捐納寺廟、捐納獻金、或公積金等本利全部讓出、

然而、推讓不僅限於金錢之推讓、亦有智、力(勤勞奉仕等)之推讓更須守分度、分外些微之數、亦在一定的機會、陸續推讓發財、例如每

月至少開一回常會、推讓為常住、

此曰「善種金」之推讓、善為道德金為經濟、種為原動力推進力、善種為道德經濟一元之資金以此推進於社會、可舉善果之強力資金、此善種金、推讓之所及、漸次累加、

有時打開當面環境、若能以無利息運用之、則天下無二之報德體制、可謂完備矣、如彼天下之離村杉山

當明治九年未、欲以報德方法打開難局、傾囊推讓、其最初善種金之總計、僅一角八分七厘耳、然現在已十八萬金、隆々發展而成天下之模範村矣。

以上所述者、係關於財、智、勤勞之推讓、然世人多好獲而不好讓、二宮先生於天保年間著名藤曲村之仕法書中曾嘆謂「智者以利益當身立陷驕奢、貧者遂多、貧者自貧、因之智者奪、富者奪、貧者羨、不

去此煩惱、則村譽無振興繁榮之道也。洞燭其弊、堪為吾人之座右銘也。由斯觀之、勤勞、分度、推讓三者一貫行之、其為實行報德之生活方法明矣。

實行樣式

▲總說 報德方法、按原則主要在實踐報德生活方法、打開處理環境當面諸問題、為共同的所組織的計畫方策。

此方法之實行、尤其在行政式之情形時、有指導者、且當方法實施之前、實行環境調查亦即基本調查復依方法、以善種金其他報德金為資金、關於技術方面、有方法雛形

之方法書、指導者之座右、宜置「報德社法令條目寫」或「方法須知」等規範

▲各設 方法之種類、分救急、復興、開發、永安四項

一、救急法 此係救濟現在之急

之方法、唯先生在世當時、有救濟饑饉急之有名烏山方法及小田原方法二、復興法 此復興方法、係應付環境不振衰頹等而使之恢復振興今日、如經濟更生、負債整理、民風振興等活用範圍頗廣、

此外復有災害復興、借財償還、頹廢復興各方法、當其實施、大體須先使村民徹底報德方法之趣旨、並使之決意、基本調查、樹立實施計畫、或按諸情形、實踐無息放貸常會指導等數階段之順序方法、以事實言之、遠有櫻町火災復興法、近則有富山縣淺井村之水害復興方法等、兼償還借款復興物心兩面表類之類復興法、其事實者如櫻町法、明治當初之杉山村法、近如新潟縣黑崎村法、悉為復興難村方法、此尤值特書之事實焉。

三、開發法

開發法係育成物與人之德、詳言之亦即使培擴充空產力、道義力之積極的方法。藉此可徐々實現環境之煥然發展、於斯可分為土地業務其他空曠、人的資

源之涵養及智能開發德育成就之三源之二者、關於人口政策教育制度等、姑當別論、茲專就報德式之土地開發申述之、大體言之、土

地之開發方法、係擴充土地之生產力、其中有對於新開發、已開發加

水利、土木等之耕地整理及分合交換等、唯土地開發之報德方法、概可分櫻町式與日光式、前者以所謂「荒地依荒地之力復興」為原則、藉

自興之方法、結局活用超越一定收穫量之餘力及餘剩力與運用善種金

其結果需要莫大之精神力與指導力前已申述十年增收為二千石、十五年增收為三千石也

四、永安法 此法係報德方法最後之手段、無論個人之家、村或團體應合其環境實狀、須救急者則救急須復興者則復興須積極的開發者、則開發、家庭生活或事業經營、在第一代固為安樂、然以萬事不止不轉之關係、迄及二代三代、則易陷於衰頹、然永安法係使環安固以扶翼天壤無窮之方法也、茲首由個人家庭之永安法言之、對於自家財產管理用周到縝密之心、極屬適當然此外更宜傳分度生活於子孫作基金公積金、尤為重要、關於此等基金公積金之處、種類頗多、二宮先生捐進善公普賢寺之青山教學院三百兩永年香資、每年利息三十兩中、五兩充當香資、其餘二十五兩、以日光法貸出、此為以社寺為中心之永安法之一例也。

以行政官廳、

當社、銀行等為中心者、各有國債、地方債、信託等報德中心、亦有永安善種券等之方法、然而永安法以上、不為充分、更須加添推讓他讓之道義、先至所謂讓而無損、讓而無益深實之亦

即、入者為出者之歸、來者為推讓者之復返、正指此而言也。

報 德 道 解 說 (二)

勤 勞 勤勞は開闢の道の現實の實行そのものであり、これこそ不毛より美田へ、無財より有財へ更にまた蒙昧より文化へ創造推進せしむる原動力である、先生は「非無財、無勤勞也」と言つてゐる、これはまた徳行の根元でもある、しかし勤勞が個人主義實現の方便としてなされるときはそこに經濟性はあつても道義性は無い。

勤勞が神徳皇徳を始め奉り國恩社會恩、天地萬徳に報ゆるため息まれのものとして外界の事物にとりつきその事物の徳を育てんものと專念するときこそ始めてそこに道義徳動がある、これ所謂職域奉公である。

分 度 これは「自律統制生活」とでも云ふべく、勤勞の結果たる収入を自ら統制して第三の推讓へ一歩前進せしめるのである、報徳生活様式中非常に特徴あるものである。分度の立て方は先づ天分―収入の平均を測る、むかし先生は相馬侯三十萬兩の負債を四十ヶ年計畫で償還するといふ仕法において同家百八十年間の年貢米平均を測つた有名な例もあるが、一般には數年間の収入の平均をとりこれを「應天分」とする、次に天分の支出は分内、分外の二つに分ち、その割合は主制四分の法又は春生夏長秋收冬藏の四節の法に則り四分の三を分内とし經常臨時の日常費用に充て、四分の一は分外として將來に残すとかして、とかく贅澤にならず吝嗇にならぬやうに生活規正をなすのである。

かうして數年分度生活を行ひ収入の増加に従つて天分の再測定をし分度を改訂して行くのである。新分度においては分内外の率に變りはないとしても絶対額は兩者とも増加し生活内容はそれだけ豊富となり生活生々發展となるわけである、いまや決戦下の戦時統制經濟は生産配給―消費統制と行はれてゐるが、この消費統制を最も有効適切にするには各家庭生活において右の如き分度生活を徹底するに如くはないのである。

推 讓 勤勞は開闢であり推讓は讓道であり推讓生活こそ 天照大神の開闢の大道をわれらの生活に大成せしむるものである、いま一二の例を以て示すと、金一兩で一反の田開かれ一石一兩替の米一石收獲され、一石の半分を食ひ半ばを讓り次年の開田の資とするときは次年には開田一反半、産米一石五斗を得る、さらにその半分の食ひ半分を讓り、このやうにするこゝと一週度六十年を経過するとつひには開田總反田別二十四億五千四百十八萬二千二百五十三町二反六畝半、この取石二百四十五億四千八百八十二萬二千五百三十二石六斗二合となる。

次に推讓の生活を述べると、先づ推讓には分外推讓がある、例へば天分百圓の四分三、七十五圓の分内で生活し、残り二十五圓を推讓するのである、これは「われの爲、來年の爲、子孫の爲」といふ自己推讓、即ち自讓、結局は財蓄である、滿洲において本年の國民儲蓄目標は十六億であるが、これ

が達成は全國民が神徳皇恩國恩に報ゆるの念を以て右のやうに分外の可及的の大部分を自讓貯蓄することによつてなし得ると思ふのである、又自讓の外に他讓がある、隣保、職域のため、國家社會のためおよそ恩ある方へ讓ること、例へば自讓の殘部分から適宜寄進寄附金、積立等として元も子も出しつばなしにゆずることである。

しかし推讓は單に財の推讓に限つたこととなく、智、力(勤勞奉仕等)の推讓がある、更に分度を守り分外些たるにもせよ財の推讓を一定の機會に繼續して行ふ(例へば月少くとも一回開催する常會等で常住に推讓するときこれを「善種金の推讓」といふ、善は道徳、金は經濟、種は原動力推進力、善種金は道徳經濟一元の資金で、これを推進して社會に善果を擧げんとする力強くも美しい金である、この善種金が推讓されるに及び而もこれが漸く嵩み、時あつてか環境當面打開、報徳仕法に際して無利息で運用されるやうなことになるればこれこそ天下無敵の報徳體制が整つたといふべきである、彼の天下の難村杉山が明治九年末この報徳仕法を以て難局を打開しようとしたとき或は一文、二文となげなしたの財布から推讓した最初の善種金の總計わづか十八錢七厘であつたが、現在では十八萬圓となり天下の模範村として生々發展せしめたのである。

以上財智、勤勞の推讓について記述したが、世人には得てしてこの讓ることを好まぬものが多いのである、二宮先生は天保の頃有名な藤曲村の仕法書中で「智者は利慾にして身を富まし、忽ち窮者に陥り窮するもの多し、貧者は素よ

り窮す、是を以てこれを觀れば智者は奪ふ、富者は奪り貧者は羨むこの煩惱去らずんば村柄立直繁榮之道無之」と嘆じ且つは喝破してゐる、以て銘記すべきである。

かくの如く勤勞、分度、推讓の三者はそのまゝ一貫して報徳實行の生活方法であることが判るのである。

總 說 報徳仕法といふのは原理に則り報徳生活方法を實踐しつづつ環境當面の諸問題を打開處理する主として共同的になされる組織的計畫的施策である。

この仕法の實施には、ことに行政式になす場合には櫻町日光等の如く報徳役所又は陣等に報徳方ともいはれる指導者があり、また仕法實施前には環境の天分即ち基本調査がされる、さらに仕法によつて善種金その他の報徳金を資金とするものがあつて、技術面については既述の日光仕法に見るが如き仕法難形なる方法書がある、指導者の座右には「報徳社法會條目寫」又は「御仕法取扱に付可心掛條々」等の規範が置かれてゐる。

各 説 仕法の種類には救急、復興、開發、永安の四がある。

一、救急仕法 此れは現在の急を救ふ仕法であるが、先生在世當時では饑饉の急を救つた有名な鳥山及び小田原仕法等がある。

二、復興仕法 此の復興仕法は環境の不振衰退等に對處してこれを回復振起せしめる仕法で、報徳仕法中最も例が多いのである今日でも經濟更生、負債整理、民風作興等活用範圍の廣いものである。

これは更にその原因如何によつて災害復興、借財償還廢復興の各仕法がある、仕法を實施するには大體先づ町村民に報徳仕法の趣

旨を徹底し決意せしめ、基本調査實施計畫の樹立、場合により無利息貸付常會指導等の數段階の順序方法を踏むのである、實例としては古くは櫻町の火災復興仕法、近くは富山縣淺井村の水害復興仕法等がある、借財償還をも兼ね物心兩面の衰退を復興した廢類復興仕法の讓としては櫻町仕法、明治當初の杉山村仕法、近くは新潟縣黒崎村の仕法の如き、これも難村取直仕法として特に著しいものがある。

三、開發仕法 開發仕法はものと人の徳を更に育成する即ち生産力、道義力を啓培擴充せしめる積極的仕法で、これにより環境の至々發展が徐々に實現されてくるかくて土地、業務その他の生産、人的資源の涵養及び智能啓蒙徳器成就の三者に分ち得るのである。

後の二者は主として人口政策、教育制度等の關する所姑く預かり、こゝでは専ら報徳式の土地開發について述べる、大體土地の開發方法は土地の生産力を擴充するもので、これには新たに開墾するものや既墾のものに水利、土木等を加へなす耕地整理や、その分合交換等によるものなどがあるが土地開墾の報徳仕法は概ね櫻町式と日光式とに分ち得る、前者は櫻町三村其他多くの仕法に於て所謂「荒地は荒地の力によりて起す返す」といふことを原則として自興の方法により結局請負うた一定の收獲量を越す餘力及び餘剩力の活用と善種金の運用とを以てしたのである。その結果著しい精神力と指導力を要し既述の如く十ヶ年にして二千石、十五ヶ年で三千石の増收となつた。

國民勤勞奉公制度概說

在康德七年實行國兵法之同時，當局有力者即有國民總服役法制定之提議，總服役法者，即除服兵役而外之國民皆有服役勤勞義務之謂也。當時以時期尚早，機運未熟，其議遂寢。後以國內建設節々進行需要勞力日々增加，漸感勞力之不足，而已往仰賴河北山東勞工之入國，以補救國內勞力之問題。惟以華北治安日漸恢復，產業因而復興，工業遂而進展，華北自身吸收勞力漸次增加，已無豐富勞力輸出之餘地。一方因我國通商管理法之實施，資金不得任意出國，勞工通款頗感困難。因此兩種理由，華北勞工之入國者，其人數已大非昔日之可比。國內勞力問題，遂成即須解決之急務矣。尤其在康德八年十二月八日大東亞戰爭勃發之後，為增強戰力而需急速之建設與增產，解決勞工問題，更成爲刻不容緩之急務。而以前國民總服役之議論，復行蘊釀機運成熟，早晚有實現之可能矣。幸昨春爲修築京濱線復線工程，首由協和會提倡動員青年服其勞務，遂與吉林濱江兩省公署與管下各縣及滿鐵共同協力之下，組織國民勤勞奉公隊，從事復線工程，僅以約兩月之日時，完成其困難之工程。全國上下非但同慶該工程之成功，且對於勤勞奉公之期待於解決勞工問題，亦獲得極大之光明與暗示。鑑於京濱線復線工程之成功，政府當局遂下創設勤勞奉公制度之決意，去年十一月十八日以勅令公佈國民勤勞奉公法，自本年一月一日施行，諒諸公已所詳知此乃國民勤勞奉公制度制定之由來也。此制實施未久，目下業已實行動員，將

來之成果，頗堪期待。勤勞乃無中生有之國寶，增強國力之泉源。譬如山林礦產其死藏於山間地下者，於國民民生毫無裨益，待有勞力砍伐開採，始能爲用，所謂無中生有之國寶，增強國力之泉源者，即此意耳。且勤勞於國民之鍊成有莫大之關鍵，如能崇尚勤勞，從事工作自能養成忍苦耐勞重視責任之心，確爲個人修養之要素，爲國之要道，未聞卑視勤勞，崇尚文弱之國民，能保其身，而強其國者也。國民勤勞奉公制之宗旨，不外上述增產建設與國民鍊成之兩點，即於國民勤勞奉公法第一條有明文之指示，「本法以勤勞而鍊成帝國青年，使其挺身於高度國防國家之建設事業，並涵養其真正之勤勞觀，而使其對於國家奉公之觀念旺盛，以期向達成建國理想邁進爲目的」。簡言之，此條法文之所示，即以勤勞奉公，做國民之鍊成（爲國民之訓練），與集結（動員）國民之勞力，貢獻於高度國防國家之建設事業。

國民勤勞奉公隊鍊成的目標，在於國民精神之昂揚與國民生活態度之改善，及最高作業能率之發揮。鍊成概分爲下記五項。

1. 精神的陶冶與訓練。已往我國民之多數崇尚斯文，卑視勞作，雖貴重讀書，不過讀書爲識字，識字爲做官，做官爲發財，只能高官得做，一切不問其他，做事敷衍，毫無責任，只知利己，不顧有人，只知有家，不知爲國，而精神的陶冶與訓練，能使國民脫離舊有人生觀，且使知既爲國民一份子，則有爲國效勞之義務，打破利己主義，轉向

爲國奉公之觀念，並以勤勞奉公血汗之體驗，使其有忍苦耐勞之心，重視責任之觀念，一旦受命之事，肯排除萬難，勇往直前，而養成忠誠勇武之犧牲精神也。

2. 肉體的鍛鍊。有健全肉體，才有健全精神，勤勞奉公隊以軍隊的組織，富有紀律的團體生活，健康自能增進，體位自能向上，不但可矯正已往之文弱，且於發揮作業能率上，有莫大之效果。
3. 團體的訓練。我國民已往係一盤散沙，毫無訓練之國民，向無團體精神與連帶責任觀念，並欠缺服從命令之心及共同一致之意，團體生活，能使國民有團體精神與連帶責任觀念，且以團體的紀律與統制，能涵養絕對服從之習慣，保持共同一致之行動，於國民精神之振作及作業能率之發揮，皆有極大之效果。
4. 生活的訓練。在所生活規範之下，使除去舊來之陋習，講究清潔，崇尚整頓，維持秩序。互重禮節，明朗禮達，以養成自治自營之精神，其於將來社會生活之改善進步有莫大之效也。
5. 技術的指導與訓練。以勤勞奉公從事於種々作業，自能熟習各種技術。不但能使國民全般之技術程度向上，且能使國民對於技術之關心，日趨深刻也。

以上述各項訓練，不惟獲得國民精神之陶冶，國民生活態度之改善，即作業最高能率之發揮，亦可因之而達到其目的。

二、增產建設

增產與建設，在平時則爲富國裕民，在戰時則爲增強國家戰力。友邦日本，秉正義與英美宣戰，我國以一德一心不可分離關係，有與友邦同心協力，共同奮鬥，而操最後勝券以確立東亞共榮圈，建設世界新秩序之義務。而現代之戰爭，不僅是前線武力之戰爭，實爲國家總力之戰爭，故我國從事增產建設，以增強兩國國家總力，乃爲當務之急者也。在拿破倫時代，曾有問拿翁曰：戰事何事爲至要，答曰金錢。請問其次，答曰金錢。更問其次，仍答曰金錢。可見當時金錢於戰爭爲必不可缺唯一之要素。只有金錢即可繼續戰爭。逮至近代，戰爭要素，逐時變遷，於第一次世界大戰英國基齊納爾元帥曾謂：「於近代戰爭所必要者有三M」乃爲世人共知之名言，此三M是人（Man）物（Material）、金錢（money）。三M之中尤以人（與勞力）爲第一重要。當時據德國之計算，一名德兵在前線活躍，需用工場勞動者二、三一人，鑛山勞動者〇、二四人，共計二、五五人勞力之供給。法國共計二、八八八人。總之，當時爲維持一個師團兩萬人兵力在前線活動後防得有約三萬人勞力之供給，及至此大戰，其比率更爲增加。法國近代機械戰之權威者都布奈將軍論斷二人乘戰車一台在戰線活動，需要四六人勞動者勞力之供給，飛機一架需六〇人勞力之供給。據蘇聯之計算，戰車一輛需七〇人之勞力，飛機一架需一二五人之勞力，其數目更爲激增，以此可知人與勞力之於現代戰爭之重要性矣。在此大戰，戰力構成要素亦有三，乃人、物、訓練是也。可注目者，金錢除外，新加訓練之一節，蓋因現時參戰各國金錢僅爲國內交換手段，即同體與中立國間之國際貿易，概皆以物換物行之，故國家有物即可換外國之物，不必以金錢決債，故金錢不爲現代戰力構成之要素。構成現代戰力要素之人，乃指人數與勞力之威力而言，不過一國人口有限，如欲增加一倍至少須七十年或一百年，故人口急速之增加絕無希望，惟人而加以訓練效果如何，可將人數與勞力之威力增至一倍或至數倍，此所謂不在多而在乎精者，故訓練成爲現代戰爭要素之一。物乃指資材資源生產能力，運輸交通等一切之力量而言，惟物之增加有無限之希望，尤如我國地大物博埋藏無量，果能以有訓練之國民開闢無限之資源，則戰力飛躍的增強，可垂手而待也。由是觀之，國民勤勞奉公制度，不僅達成國民訓練之目的，且於增強戰力有莫大之貢獻。此制之成功與否，不但於東亞共榮圈之確立有莫大之影響，即於大東亞戰爭之結果，亦有極大之關係者也。故國民須知勤勞奉公，乃爲國而奉公，且爲東亞民族而奉公，責任重大，榮譽崇高，其與出賣勞力用以謀生之勞動者，迥然不同者自不待言矣。

本年爲實施國民勤勞奉公制之第一年，動員人數不過十二萬人，四五年後，每年豫定動員六、七十萬之青年，其增產建設之威力，及其於改善國民生活，振興國民精神促進社會進步之影響，可推想而知故我國民，皆宜徹底了解此制度之宗旨，踴躍從事勤勞奉公，以副國家之期望爲至要。

我國社會事業諸問題 (上)

滿洲中央社會事業協會
主 事 王 世 遠

查我滿洲從來並無社會事業之名詞、自建國後大同二年三月間、於民政部地方司內、設立滿洲國中央社會事業聯合會、其後新、京、哈爾濱、奉天等處、亦相繼成立、均致力於人民之幸福、與社會秩序之安寧、因而社會事業之名詞、始漸普及、惟滿洲國人、對於隣保互助精神、乃係固有之道德、從來由篤志家、宗教及慈善家組成之規模社會事業、從事進行者頗不乏人、然而彼等所辦之事業、僅就個人心理範圍過狹、不得謂社會事業、建國以來、所創辦之社會事業、實由彼等以往之事跡、而繼續進行自不能仍本於個人心理、應以國家之力量辦理、向來慈善之動機、無非由慈善家、宗教家、爲個人體面及利害關係、而發起其實施之方法、多不問所辦何事、僅以款項支出爲了事、茲則既由國家辦理、應以一定之方針、一定之計劃、着手從事、姑就其概略研究之、夫社會事業究爲何物、若以學問家研究其定義、不外除去社會之缺陷、而謀調整國民之安寧、與幸福、故一般學者、謂社會事業之對象、爲受罪者、受壓迫者、病者、貧者、及失業等、是以將來對病者、擬作保健醫療事業、貧

者、受壓迫者、作救濟事業、失業者作授產事業、受罪者作教化事業、不過以上各種事業、均係消極辦法、不得認爲完善、應以積極方法、謀國民之安寧與幸福、以前所謂社會事業、乃係出於慈善心之事業、勿須詳解、茲以學理研究不得不作進一層之檢討、即日本明治初年亦無此種名詞、嗣以數十年之進步與發展、爲時勢所趨、不得不提倡社會事業、而社會事業之名詞、遂應時而起、查社會事業爲集團的而慈善事業爲個人的、其不同之點、可按照下列各項解釋之、(一) 社會事業係客觀的、慈善事業係主觀的、(二) 社會事業係物質的、慈善事業係人格的、(三) 社會事業係有組織的、慈善事業係無組織的、(四) 社會事業既係有組織的、自不得不以學識技術組織之慈善事業、則不需要此次協和會中央本部舉辦講習會、亦即期以學識技術、互相切磋之意、以上所論、不過就兩者、加以比較而已、究竟社會與慈善之區別、並非相差甚遠、例如所謂社會事業係物質的、慈善事業係人格的、但社會事業如無人格、亦絕難辦到完善地步、又如謂慈善事業係無組織的、社會事業係有組織的、但慈善

事業、如無組織亦難收其美滿效果、此社會事業與慈善事業異同之點也、我國社會事業運用問題、民間社會事業之團體如世界紅十字會、博濟慈善會、道德會、理善會、五台山佛教會、大同佛教會、白十字會等各施設於各省、市縣旗各地、已設有兩千餘處之多、然其發起當時、均有一種特別原因、而促其成立、亦無不因大局之趨勢、應時而興、然其用意無非以救世化人爲目的、我國社會事業之辦理方法、若以消極方法辦理之、於現在聖戰體制之下、認爲不適當、蓋以一遇待救者、即豫以救濟、則應救濟者、不可勝數、將見不勝其救濟、如各省大城市、患鴉片嗎啡癮者、每多倒斃大有人在、對此不知自強份子、理應先將其嗎啡癮解除、再加以謀生之技能、此即所謂生產的社會事業、乃我國目前切要之圖也、而養老院之老年人、育兒院之嬰兒、因情有特殊、不能與前者相提而並論、惟對於游手好閒之壯年人、應加相當考慮、勿使其養成依賴之習慣、從來一般人辦理慈善事業、並不考慮、亦不研究其結果如何、亦不加以批判、今吾國辦理此事、極應矯正積弊、核研究、本照既定方針、與完密計劃、着手實行、再將其結果加以詳細之批判、蓋事之無批判、如人之對於子女溺愛不明、無論要求之是否、惟一味俯從之、此即無批判之一例、人之對於子女所要求者、應先問其是否、而後方能予以准諾或駁斥、此之謂有批判、今後我國辦理社會事業、亦應按照此種手續辦理之、再者辦理社會事業非財莫學、然財源究由何處而來極應加以研究、茲先以日本言之、日本社會事業財源之來源甚廣、無須赴各處募集、均係樂善好施者之自動輸捐、故辦理事業較易、我國刻尙未達此種程度、但今後辦理社會事業之財源、不得加以詳細之討論、雖不能如日本之良善、亦應籌劃最妥善之辦法、以期事業之發展、茲略述如下、義倉制度實行、即由義倉儲蓄撥出若干圓、作爲社會事業費、編於社會事業預算內、以作辦理社會事業之經費、是以今後辦理社會事業之財源不可謂之無着、此外如地方開闢財源、亦有相當辦法如地方無主土地房屋或以前逃戶及沒收遺產等從事經營則社會事業之財源可有相當之收入、如此則辦理社會事業、而社會事業何患不發展、否則姑門托鉢、行同乞巧、非但觀瞻不雅、即經辦人、亦感覺困難、再將我國以往往理社會事業之優點及缺點加以討論、(一) 最重要之短處、即衛生之不良、

(二) 我國辦理社會事業者、缺少宣傳與聯絡、殊爲遺憾、今後辦理社會事業應互相緊密聯絡、以國家社會事業爲前提、共同合作切勿各行其事、然辦理慈善事業團體的人數雖多、而負責者過少、嗣後應以少數人、能負責辦理極繁重之社會事業、方爲正當、

外 國 消 息

華北的回教戰士 阜新へ産業進軍

山本元帥の戦死、アツ

ソ島山崎部隊全滅に復讐の念火と燃えて戰場即決死戰場の覺悟を以て増産に邁進する滿洲國へ中國から増産戰士派遣—回教總聯合會では中國參戰下勤勞の意欲に目覺めた華北の回教徒勞工を滿洲國阜新炭礦の黒ダイヤ地帯に鶴嘴戰士として送り出す事になり、第一回回教勞工〇〇名が二十六日天津に集合し二十七日敢闘を誓つて阜新炭礦に向け出發することになった、生活環境を異にする回教勞工の供出にあたり回教總聯合會では豫て華北勞工協會の斡旋により阜新炭礦側と労働條件、労働管理の具體的問題について種々協議を重ねた結果炭礦側でもこの起ち上る回教徒勞工に對し誠意ある労働管理を行ふことを約束し、彼等の爲に清真寺の建立、回教小學校、回教廟の建設並に恒久的な労働地盤育成の爲に工作地、收地の提供等を計畫した機構を中心とする回教總聯合會ではこれを契機に國民の勤勞意欲を助長して更に第二次、第三次回教勞工の供出を計畫、その準備を進めてをり、これ等回教徒の黒ダイヤ地帯進軍は滿洲國の地下資源開發は勿論眠れる東亞國民の勤勞精神の覺醒に重大な貢獻を齎すものといへよう。



教化

浴佛節日

開教化講演會

【林口】五月十一日

舊曆四月八日爲釋尊誕辰，滿洲大同佛教會林口縣分會爲此佳節...

講演會演劇等由總會劉徐張三宣化員登台宣講...

大同佛教會宣化員

組織勸勞奉公講演班

【雙城】滿洲大同佛教總會，爲順應國策支援聖戰...

【雙城】雙城縣大同佛教分會，爲負起教化報國的重大使命...

勸勞奉公、節約報國、女子勸勞奉公、改除惡習等題目...

厚生

厚生事業協會新發足

【大連】今回新に發

協會では各種社會事業施設を傘下に收め、從來各團體において實施してゐた資金募集を同協會に統一することとなつた...

大連方面事業助成會、鎌倉保育園、大連支部愛育園、同新生學園...

祀祭

追念警官

豐功弔慰英靈

【吉林】茲爲追慕慰

贖殉職於熱河省、西南國境、之故警尉、高曉峰等、五位英靈吉林省合同慰靈祭、於五月廿五日下午二時起、在公會堂修佛事莊重舉行...

建國忠靈廟春季大祭

三十一日嚴肅舉行

【新京】建國忠靈廟第五回春季恒例大祭、於五月三十一日在國都南郊歡喜嶺神之該廟內由張國務總理長官以下日滿顯官要人約二百餘名及榮浴特別參列光榮之祭神遺族等多數參列中...

沈南祭祀府正副總裁以下全體參列官員主持下盛大嚴肅舉行大祭儀式...

是日協和會首都本部方面、爲紀念此聖戰下意義深遠之春季大祭起見、當日於建國忠靈廟域內、燃放花火及演劇等有意義之行事。

建國忠靈廟春季大祭

全國遺族代表一百四十七名

【新京】建國忠靈廟春季大祭、已於卅一日於國都南郊歡喜嶺聖域內嚴肅舉行當日除於張國務總理以下各部大臣及日本代表等日滿顯官多數參列外、由齋戒沐浴之橋本沈南祭祀府正副總裁以下全體參列官員主持執行外、更特別招請英靈遺族代表等多數參列、使彼等於靜穆之聖域內、得獲感激之對面、榮浴此等參列光榮之遺族代表全國共爲一百四十七名、即滿系百廿名、日系十二名、鮮系六名、蒙系九名...

藉浴佛道場祈禱

聖戰完畢

各省代表亦於大祭之先後來京、於各遺族代表在京中之一切招待行禮、由當局妥切準備、滿、鮮、蒙系之遺族代表下榻於日置樓、福順樓、悅來樓及東亞合等四處、日系代表爲扇房旅館、迄至卅日正午全體集齊後、於當日午後由當局招待參觀市內云。

【雙城】滿洲佛教會、熱河省、豐南縣分會、於五月十一日、即舊曆四月初八、佛誕良辰、依例在縣城內普濟寺、招集洪德寺等距離較近一般僧侶、舉辦浴佛道場一日、關於翌十二日、聯衆僧齊集之聚會、仍繼續誦經一晝夜、並另行發表獻供以祈禱大聖聖戰早日完遂、惟斯日恰逢該普濟寺補修廟宇、共二十餘名勞働階級者、俱屬佛教信者每於焚香祈禱時、均相隨頂禮、分會長真慧法師、對該勞工等謂、宜實行大聖聖戰下種種開發事業、以期接獲勝利完遂、各位既知自動參加祈禱、則足徵係言行如一之佛教信者、而對我佛教忠誠報國之主旨、更應徹底瞭解、如各位有時勞力貢獻於槍後時、總希爭先恐後竭誠奮勉永抱偉大理想、既希將來昂享新聖共榮幸福、且不負佛教信徒、共濟佛教報國之平不可拔的主義云云、若斯簡略的說了約有十五分鐘之久...

衆輩之下、頗爲動容、感受深感云。

教 化 通 信

觀音古剎作

全省長說明水陸道場

【吉林】本市巴虎門觀音古剎，為新闢崇祀及超渡日滿殉難軍警之忠魂，於五月十六日開始，盛大舉開水陸道場，當該祭之第六日，金省長以地方首腦調和之立場，於午前十時偕同路民宅廳長等，躬至該寺，虔誠拜佛，默禱天時調和，並英靈之冥福旋由如蓮法師向金省長說明水陸道場之緣起，茲誌該考於次

考水陸與起，有三大因緣：(一)梁武帝為夫人希氏至前所害宮人，死後受報難身，現形宮禁，乞求救度，武帝恭請誌公長老等十大高僧，遵依我佛經法集成慈悲寶，創建水陸齋法，遂超希氏昇天。(二)迨至唐高宗時，法海英師親見異人，乞求舉行水陸道場，救度苦饑，答無作法儀本，異人告於某地某寺某師，倘有存快，遂路求之，果得是書，因重振新法，旋異人等，感謝得度而去，其異人乃戰國時之秦王，與其臣白起王翦等也。(三)宋朝四明學者，法智大師，繼述儀就明代蓮池大師，提倡齋法，重訂水陸，屢作普度道場均有昭著靈應，是以奉行流通至今。

祈五穀豐登慰日滿英靈

設道場高僧演說法

【吉林】呼應前後農望之當前急務，為祈禱天時順調得五穀豐收之慶，本市巴虎門觀音古剎，於於慈惠法旨，特設水陸道場於五月

間遊歷各方高僧名，假該寺設壇誦經虔誠祈禱豐年，加以盛舉，經主持僧如蓮法師之奔走折衝下，已得吉林省市社會事業協會，協和會吉林省市大部及佛教會吉林省支部等之後援，於五月十六日隆重舉開矣，此間在吉之朝野名流為襄盛舉，莫不紛至沓來，善男信女趨之若鶩，香煙繚繞極志一時之盛，茲便誌該齋法，而超渡日滿殉難軍警之軍警官吏英魂忠靈等，屆時由在吉軍方首腦及軍援當局，國防婦人會等均行參加，一番空前盛況實現於該寺云。

安息日會

財團法人成立

【新報】滿洲基督教復興

臨安息日會總會會址，原在奉天，後以會務集中國都以致頗感不便，乃於去年十一月間，由奉天遷移國都，並為鞏固團體基礎，復於客歲十一月間向新報特別市公署，申請設立財團法人，及本年四月十五日，蒙文政部許可發給文政部指令第三號(文政發第一一一號)遂於五月十一日，在新京區法政登記完畢，該會之財團法人，包含全滿各支會神學院及醫院等，自務今後之發展，頗值期待云。

省教化團體聯合會結成

【四平】四平市宗教化團體籌備

擇時同下宗教化奉公報國之使命，特聯合四平省各地宗教化團體，籌備結成聯合會，經由籌備委員長吉出門七氏之積極進行於最近已籌備

妥善，於五月二十四日下午一時假省世界紅十字會禮堂，由省內各地宗教化團體代表參加下，舉行四平市宗教化團體聯合會結成式，迄至三時許終了。

齊齊哈爾

將盛大展開

【齊齊哈爾】鴉片斷絕

鴉片斷絕國策之實施除英雄之遺毒阿片計，本市對鴉片斷絕之實行，期其具體之實現起見，特由市禁煙關係當局，主辦康德十年第一回，禁煙週間，其實施之期間及場所如下：

△六月一日午後一時至四時，假大陸電影院，舉行映畫及講演大會

△六月二日午前九時至十二時，於各國民學校內，舉行禁煙講話

△六月三日，午前八時至午後五時，於各管轄所內，實施阿片麻藥之

中止，藉以喚起覺悟者之自覺

△六月四日，正午十二時至午後五時，於龍江大戲院內，實施學生

禁煙內容雜辯大會

△六月五日，正午十二時至午後五時，於龍江大戲院內，實行禁

煙劇公演

△六月六日，午後一時至五時，各

管轄所及其集團，實施禁煙宣傳

△六月七日，午前十時至午後二時

於各管轄所內，實施禁煙之實施

利用吉林北山

廟會宣傳禁煙

【吉林】北山藥王廟會(舊歷四

月二十八日)當每年舉行的時候，總是遐邇轟動，一般遊廟的潮湧而來瞻仰這名山的廟會，尤其在這五日的廟會期間內有連接兩天是假日(三十一日)想前來參加藥王廟會的人士定比往年更要熱鬧上幾倍，市公署保健科當局，為藉此空前盛大

還市禁煙紀念行事

【遼陽】市公署保健衛生科基於

政府樹立十年鴉片麻藥斷絕政策，本年六月三日，禁煙紀念之期，應政股為期徹度實踐鴉片麻藥斷絕工作決定於日實施宣傳教化工作，以期喚起全市市民，對於自名自戒，以達成斷絕之使命，又據縣署政政當局，為謀達成我國鴉片十年斷絕計劃，該股於五月二十四日召集縣下各管轄所主任，開催煙政會議，對於本年禁煙紀念日，協議宣傳，喚醒民眾，徹底覺悟，早日戒除煙毒以期恢復健康之國民。

范禁煙總局長赴奉

【新報】范為嚴問於前此五月中

句，分赴各現地工場就勞之鴉片解癮者，范禁煙總局長借同了禁煙科長，及隨員二名，於二十六日午後八時，自京乘車赴奉同時更携帶簡簾，胡琴等娛樂品，由奉天赴遼陽於三十日歸任云。

戒煙成功者使為生產戰士

當局編班往現地慰問

【新報】本年為我國鴉片斷絕十年計後後半期開始，之第一年，亦即我國整個禁煙政策成敗之重要關鍵禁煙總局有鑑于此，以本年伊始基于過去之經驗，即對從來之諸方針加以全面整頓刷新與強化，其中極為全國所注意者則為計畫實施之解癮者，就勞問題，此種訓期之

方策、不僅可以監督戒除者之再染、並可鍛鍊戒除者之身心、俾爲健全之國民、同時並可令其負起國家生產之使命、充爲增產戰士之一員、其意義實重大、願經當局審核之結果、四、五兩月已有三班(每班三十人)解輪者正式派往奉天、遼陽、錦州三地重要工場服務、禁烟總局方面爲慰問此等就勞者、頃特由總局長副局長、庶務科長編成三組慰問班、已於五月二十四日分赴奉、遼、錦三地慰問、于二十七、八日返京抵現地時、除對該等就勞者有所激勵外、並詳查其就勞狀況、及收得實績、作爲今後繼續推行之參攷資料、聞其成果非常良好云。

東滿全教會獻納金鐘

【龍井】 教會堂之鐘也獻爲美英軍滅之彈丸、自五月九日至十四日於新京協和會本部中央本部所實行滿洲、朝鮮基督教會所屬技師之訓練參加十六日歸還龍井的滿洲朝鮮基督教會東滿教區會長文平在麟氏將東滿教區教會堂之鐘獻出、並發表如次談話。

伴隨金屬回收之強化、一般工場或家庭死藏之重要金屬物資、以至寺院之梵鐘、爲增強戰力、而獻爲美英軍滅之彈丸、所以教所之鐘當然也不能例外、欣然奉公、當先般教會常務委員會時、已有全滿一齊獻出之決議、不單僅獻出教會之鐘、即全教會之信徒、更有強力協力金屬回收之方法、不過對於獻出之時期一時延期了、然而已有最大之決議、決議後的精神、在東滿教區龍井、將獻出全滿教會最大之鐘、目下正在考究獻出之方法中、不久即時決定。

神前獻納金鐘

誓祈滅美英

獻納

【四平】 協和會四平市

本部日滿商事四平支店、海軍協會四平後援會爲發揚大東亞聖戰下檢後國民愛美英之決意、並促進一般國民獻身報國思想、特於五月廿五日四平神社春季例祭之當日、假四平神社境內舉開金屬獻納展覽會、當日場內陳列市民爲愛美英完成大東亞建設之鋼鐵金屬物品有如山積、屆時前往參拜神社者多持自之有廢鐵物品獻納、以示報國打倒美英之決意、市公署早田企劃股長、因無廢鐵物品、特將保存多年之古銅鐵獻出、由此可國民對愛美英之決意、結果獲得預想以上之好成績、又二、七兩日爲海軍

紀念日、協和本部更特定假公會堂前舉行同樣之展覽會。

【龍井】 教會堂之鐘也獻爲美英軍滅之彈丸、自五月九日至十四日於新京協和會本部中央本部所實行滿洲、朝鮮基督教會所屬技師之訓練參加十六日歸還龍井的滿洲朝鮮基督教會東滿教區會長文平在麟氏將東滿教區教會堂之鐘獻出、並發表如次談話。

伴隨金屬回收之強化、一般工場或家庭死藏之重要金屬物資、以至寺院之梵鐘、爲增強戰力、而獻爲美英軍滅之彈丸、所以教所之鐘當然也不能例外、欣然奉公、當先般教會常務委員會時、已有全滿一齊獻出之決議、不單僅獻出教會之鐘、即全教會之信徒、更有強力協力金屬回收之方法、不過對於獻出之時期一時延期了、然而已有最大之決議、決議後的精神、在東滿教區龍井、將獻出全滿教會最大之鐘、目下正在考究獻出之方法中、不久即時決定。

【安東】 擔當金屬獻納運動而奮起的滿洲國佛教總會安東省支部、對市內各寺院之梵鐘三個、半鐘五個、決定獻納、待運搬場所決定後信徒一同出動、現在鎮江山臨濟寺之鐘、亦成爲待機出擊命令之鐘、不日即變爲殺敵之彈丸矣

【龍井】 教會堂之鐘也獻爲美英軍滅之彈丸、自五月九日至十四日於新京協和會本部中央本部所實行滿洲、朝鮮基督教會所屬技師之訓練參加十六日歸還龍井的滿洲朝鮮基督教會東滿教區會長文平在麟氏將東滿教區教會堂之鐘獻出、並發表如次談話。

伴隨金屬回收之強化、一般工場或家庭死藏之重要金屬物資、以至寺院之梵鐘、爲增強戰力、而獻爲美英軍滅之彈丸、所以教所之鐘當然也不能例外、欣然奉公、當先般教會常務委員會時、已有全滿一齊獻出之決議、不單僅獻出教會之鐘、即全教會之信徒、更有強力協力金屬回收之方法、不過對於獻出之時期一時延期了、然而已有最大之決議、決議後的精神、在東滿教區龍井、將獻出全滿教會最大之鐘、目下正在考究獻出之方法中、不久即時決定。

【安東】 擔當金屬獻納運動而奮起的滿洲國佛教總會安東省支部、對市內各寺院之梵鐘三個、半鐘五個、決定獻納、待運搬場所決定後信徒一同出動、現在鎮江山臨濟寺之鐘、亦成爲待機出擊命令之鐘、不日即變爲殺敵之彈丸矣

鐘鐘應召社戰線

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【龍井】 教會堂之鐘也獻爲美英軍滅之彈丸、自五月九日至十四日於新京協和會本部中央本部所實行滿洲、朝鮮基督教會所屬技師之訓練參加十六日歸還龍井的滿洲朝鮮基督教會東滿教區會長文平在麟氏將東滿教區教會堂之鐘獻出、並發表如次談話。

の彈丸に供出される、五月九日から十四日迄新京協和會本部中央本部所で行はれた滿洲、朝鮮基督教會所屬技師の訓練に参加十六日歸還した滿洲朝鮮基督教會東滿教區會長文平在麟氏は、東滿教區の教會堂の鐘を供出することにつき次の如く語つた。

伴隨金屬回收之強化、一般工場或家庭に死藏されてゐる重要金屬物資が寺院の梵鐘まで擧げて力増強に米英軍滅の彈丸として進んで供出されてゐるとき獨り教會の鐘がその埒外にあるものではない、欣然御奉公申すべく先般教會常務委員會に於て全滿一齊に供出すべく決議したのであつた。その節教會の鐘を供出するといふだけでなく教會が抱擁する信徒を通じてもつと力強く金屬回收に協力出来る方法がある故それを果した後供出してはと供出の時期が延期されたが、折角決議したものであり決議した精神を空かしてせめて東滿教區に於ける龍井だけでも全滿の教會に對して鐘を供出してはと目下その方法を考究中であるから近く決定するであらう。

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

鐘鐘應召

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【龍井】 教會堂之鐘也獻爲美英軍滅之彈丸、自五月九日至十四日於新京協和會本部中央本部所實行滿洲、朝鮮基督教會所屬技師之訓練參加十六日歸還龍井的滿洲朝鮮基督教會東滿教區會長文平在麟氏將東滿教區教會堂之鐘獻出、並發表如次談話。

米英軍滅へ鐘の飛箭となつて飛び出すのだ、金屬獻納運動の一洲を擔つて奮ひ起つ滿洲佛教總會安東省支部では市内各寺院の梵鐘三個、半鐘五個をどつしりと獻納することに決定、運搬場所のきまり次第、信徒一同供養をなしてのも運送と出撃させることになつた、若葉の蔭、鎮江山臨濟寺のを始め今や運しと出撃命令を待機する鐘、鐘、々々、敵必殺の彈丸となつてうなる日も近い。

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

【安東】 敗れゆく米英への弔鐘を鳴らすだけでは物足らぬやうすぐ

東本願寺開拓團來滿

【新京】 東本願寺滿洲開拓地勤勞奉仕隊第二回派遣隊員二十三名五月二十七日搭車抵京、經拓殖委員會其他關係機關し輪旋、前往錦州盤山縣開拓地、預定以四十日間協力開拓云。

【新京】 東本願寺滿洲開拓地勤勞奉仕隊第二回派遣隊員二十三名五月二十七日搭車抵京、經拓殖委員會其他關係機關し輪旋、前往錦州盤山縣開拓地、預定以四十日間協力開拓云。

【新京】 東本願寺滿洲開拓地勤勞奉仕隊第二回派遣隊員二十三名五月二十七日搭車抵京、經拓殖委員會其他關係機關し輪旋、前往錦州盤山縣開拓地、預定以四十日間協力開拓云。

殖委員會その他關係機關の斡旋により錦州盤山縣の開拓地に赴き約四十日間の豫定で開拓に協力する。

【新京】 五穀農豐を祈願する市公署康徳十年度獻穀團獻入式は二十六日午前十時から南河東區權子洞分會小河沿岸で張、大迫正副市長等多數には列席の下に盛大に行れる、式後引續き農產物増産蒐荷懇談會を開催する。

【新京】 五穀農豐を祈願する市公署康徳十年度獻穀團獻入式は二十六日午前十時から南河東區權子洞分會小河沿岸で張、大迫正副市長等多數には列席の下に盛大に行れる、式後引續き農產物増産蒐荷懇談會を開催する。

【新京】 五穀農豐を祈願する市公署康徳十年度獻穀團獻入式は二十六日午前十時から南河東區權子洞分會小河沿岸で張、大迫正副市長等多數には列席の下に盛大に行れる、式後引續き農產物増産蒐荷懇談會を開催する。

【京城】 帝大考古學家島島山喜一教授因文教部之招聘、與該部屬託三宅俊成氏自四月下旬起約一月期間、調查發掘一千二百年前渤海五國之遺蹟西古城址、該遺蹟係位於間島省和龍縣遺溝、首先着手發掘南門、收效頗鉅、近已調查終了、於歸城中途、在五月二十五日來京、該教授於大正年間、昭和三年及康徳四年期間、曾前後四次實施地調査渤海遺蹟、此次計發掘南門、並六處殿宇西古城址爲海之中京、爲證明樂業之有根據、島山教授於文教部談話如左

【京城】 帝大考古學家島島山喜一教授因文教部之招聘、與該部屬託三宅俊成氏自四月下旬起約一月期間、調查發掘一千二百年前渤海五國之遺蹟西古城址、該遺蹟係位於間島省和龍縣遺溝、首先着手發掘南門、收效頗鉅、近已調查終了、於歸城中途、在五月二十五日來京、該教授於大正年間、昭和三年及康徳四年期間、曾前後四次實施地調査渤海遺蹟、此次計發掘南門、並六處殿宇西古城址爲海之中京、爲證明樂業之有根據、島山教授於文教部談話如左

【京城】 帝大考古學家島島山喜一教授因文教部之招聘、與該部屬託三宅俊成氏自四月下旬起約一月期間、調查發掘一千二百年前渤海五國之遺蹟西古城址、該遺蹟係位於間島省和龍縣遺溝、首先着手發掘南門、收效頗鉅、近已調查終了、於歸城中途、在五月二十五日來京、該教授於大正年間、昭和三年及康徳四年期間、曾前後四次實施地調査渤海遺蹟、此次計發掘南門、並六處殿宇西古城址爲海之中京、爲證明樂業之有根據、島山教授於文教部談話如左

遺蹟

【京城】 帝大考古學家島島山喜一教授因文教部之招聘、與該部屬託三宅俊成氏自四月下旬起約一月期間、調查發掘一千二百年前渤海五國之遺蹟西古城址、該遺蹟係位於間島省和龍縣遺溝、首先着手發掘南門、收效頗鉅、近已調查終了、於歸城中途、在五月二十五日來京、該教授於大正年間、昭和三年及康徳四年期間、曾前後四次實施地調査渤海遺蹟、此次計發掘南門、並六處殿宇西古城址爲海之中京、爲證明樂業之有根據、島山教授於文教部談話如左

【京城】 帝大考古學家島島山喜一教授因文教部之招聘、與該部屬託三宅俊成氏自四月下旬起約一月期間、調查發掘一千二百年前渤海五國之遺蹟西古城址、該遺蹟係位於間島省和龍縣遺溝、首先着手發掘南門、收效頗鉅、近已調查終了、於歸城中途、在五月二十五日來京、該教授於大正年間、昭和三年及康徳四年期間、曾前後四次實施地調査渤海遺蹟、此次計發掘南門、並六處殿宇西古城址爲海之中京、爲證明樂業之有根據、島山教授於文教部談話如左

【京城】 帝大考古學家島島山喜一教授因文教部之招聘、與該部屬託三宅俊成氏自四月下旬起約一月期間、調查發掘一千二百年前渤海五國之遺蹟西古城址、該遺蹟係位於間島省和龍縣遺溝、首先着手發掘南門、收效頗鉅、近已調查終了、於歸城中途、在五月二十五日來京、該教授於大正年間、昭和三年及康徳四年期間、曾前後四次實施地調査渤海遺蹟、此次計發掘南門、並六處殿宇西古城址爲海之中京、爲證明樂業之有根據、島山教授於文教部談話如左